

令和2年度
北九州市立看護専門学校
社会人入学試験

国語問題用紙
(9:00 ~ 9:50 50分)

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が16ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名・フリガナを忘れずに記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受験番号

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

狭い宇宙船内で襲い来るエイリアンに、世界中の誰もが戦慄した。（注1）ギーガーが描いたそのデザインに見られる恐怖は、目が無いことである。この特殊な構造が、私たちを恐怖のどん底に突き落とすとした。

のつぺらぼうに（注2）パンズ・ラビリンズのペイルマン、いずれの顔にも目が無い。あるべきものがないという不合理が、背筋を寒くさせる。果たしてこの特殊性は偶然だろうか。よく考えると彼らには共通点がある。暗がりから現れるエイリアン、夜の柳ののつぺらぼう、窓のない食堂にいるペイルマン。そう、彼らは暗い世界で進化したため、視覚を消失させたのだ。理解が及ばぬ現象は恐怖を誘発するが、理由がわかればもう怖くない。

鳥類にも同様の進化を⑦トげたものがある。ニュージーランドのキーウィは夜行性で目が小さく、代わりに嗅覚が発達している。ハワイのカウアイ・モールドックというカモは既に絶滅しているが、視覚が退化しており、触覚に頼る夜行性の鳥だったと推測されている。

目は複雑で大きな器官だ。脳の視覚野は後頭葉を占拠し、情報処理には多大なエネルギーを要し、女性を⑧ギョウシし過ぎるとセクハラで逮捕される。夜に生きるための選択肢は二つ。なお視覚にこだわりフクロウのように目を発達させ光の欠片をかき集めるか、このコストの多い器官を捨て去るか、だ。個々の視覚喪失は特殊な事例だが、総合的に見ると

A

できるセオリーと言えよう。

生物学の面白さは、まさにこの点にある。

世界には推定八七〇万種の生物がいる。森羅万象におわす神々の数より七〇万種も多いため、一柱ひとしらばしらで二種も三種も担当している神様がいるに違いない。これだけの異なる生物の存在は、同数の進化の道筋の存在を意味する。この世界にはそれだけ多様な生活が在るのだ。

1多様性とは特殊性の集合である。全ての種が各々の特徴を持つに至るには各々の事情があり、それが世界を複雑で魅力的にしていると金子みすゞさんも言っていたような気がする。一方で、特殊性は普遍性を誘う。

たとえば、恐竜から空飛ぶ鳥が進化したという特殊性。空を飛ぶならトンボも鳥も飛行機も同じ物理法則で説明できる普遍性。飛行こそがアイデンティティの鳥類から、飛ばない鳥が進化する特殊性。飛ばない鳥は捕食者がいない環境で進化しやすいという普遍性。この特殊性と普遍性のスパイラルこそが、生物多様性の魅力であり、

甲

が自然科学の喜びなのである。

私は小笠原諸島をフィールドとする鳥類学者である。小笠原諸島は、火山噴火が忙しい西之島や、日本最東端の南鳥島、激戦地の硫黄島など、バリエーションに富んだ島々を含む地域だ。この諸島には一五種の在来陸鳥がいる。そのうち八七パーセントにあたる一三種が小笠原に固有の種または亜種である。この中には、本州でもみられるウグイスやメジロ、ヒヨドリの亜種も含まれている。

小笠原は本州から一〇〇〇キロメートル離れた孤立した島だ。未訪の方はとりあえず鬮髑島を想像しておけば問題ない。孤立しているとはいえ鳥は空を飛べる生物であり、飛べるからこそ祖先が小笠原に到達した。

ロボット兵はラピュタの、キングコングは鬮髑島の固有種だ。これらの島はともに暴風圏を持ち、他の地域との交流が断たれてしまい、固有化が進んだのだろう。しかし、小笠原の周囲に竜の巣はなく、気象は穏やかだ。にもかかわらず、一〇〇〇キロメートルの海を越え渡来した鳥たちは、島に到達すると移動をやめて固有種になってしまった。

彼らは空を飛べないわけではなく、日常的には普通に飛んで暮らしている。飛翔力があるにもかかわらず、移動をやめたのだ。メジロの仲間のメグロの例では、隣の島までの四キロメートルの海すら越えないことがわかっている。この程度ならイヌのシロですらマリリンに会いに泳ぎそうなものだ。

島の生物が移動性を失うのは、鳥のみならず昆虫や植物でも見られる世界的なセオリーである。島の周囲には海しかなく、なまじつかな移動は命取りとなり、**2 冒険心の強い個体は淘汰されやすい可能性**がある。そもそも島への渡来自体が本人にとって不本意な不測の事態かもしれない。ぬくぬくと暮らせるなら二度と危険を冒したくないのかもしれない。野生生物は(注3)トム・ハンクスほど寂しがり屋じゃないのだ。

こうして島の生物は島に閉じこもり独自の進化の道を歩む。本州ではウグイスのオスは子育てをしないが、小笠原では子育てに参加する。本州のノスリは樹上に巣を作るが、小笠原では崖に作る。アフリカのゴリラは主に植物食だが、鬮髑島ではタコを食べる。地域の環境に合わせて生活が変わり、独自の生物が進化する。同様の事象が世界各地で起こり、多様性が増していくのである。

生物多様性は守る必要がある。幸いにも現代では、概ね **B** が得られている。その理由は極めて単純である。法律にそう書いてあるからだ。

二〇〇八年に制定された生物多様性基本法には、生物の多様性を次世代に引き継ぐことは国民の「責務」であると書いてある。要するに、一般道の最高時速が六〇キロメートルに制限され、二四時以後にモグワイに食べ物を与えることが禁じられているのと同様、生物多様性の保

全は国民に課せられたルールなのだ。法律じゃ、しようがないな。

日本人の生活は日本の法律により括くくられている。スポーツでも将棋でも、ルールの共有は参加の必須条件だ。ルパン三世だって法律を熟知しているからこそ官憲の目をかいくぐる努力を重ねているのであり、法律を知らなければすぐに捕まり泥棒にもなれない。そこで国民の義務として生物多様性基本法を読むと、「生物の多様性は人類存続の基盤」と書かれている。

人間の生活は、生物多様性により³様々な恩恵を受けている。これを生態系サービスと呼ぶ。多様な昆虫が花粉を運び、多様な植物資源が存続できるおかげで、多様な農作物が生み出される。森林は土砂崩れの抑止力になり、水資源が安定供給される。多様なサメがいるおかげで多様なサメ映画が製作され、動画配信サービスが^④ウルオウ。私たちの生活には豊かな生態系があった方が良さそうだ。

では、人に害なす生物はどうだろう。食パンや革ジャケットに生えたアオカビは絶滅してしまえと毒づきたくなるが、一方で抗生物質であるペニシリンはアオカビから見つかった。戦闘機械を操る無敵の恐怖火星人を撃退したのは兵器ではない。空気中の病原体の感染が彼らを退けたことは忘れてはならない。今後も、様々な生物が人に利する薬効を^⑤ケンゲンさせることだろう。既知・未知の生物が織りなす多様性が、将来にわたり様々な恵みを与えてくれるのだ。

そして何より、多様な生物は私たちに知識を与えてくれる。カッコウの托卵たくもダチョウの最高時速も、それを知ったところで実生活上の利益はない。しかし、自然現象の理解はそれ自体が喜びであり目的となる。これは、人間にとって非常に純粋な、そしてもしかしたら生物多様性の持つ最大の意義である。

残念なことだが、現代には生物多様性に害をなす要素がある。開発や環境変動に並ぶ危機の一つが、外来生物である。

バルタン星人が地球を侵略する姿を目の当たりにすれば、外来生物の脅威は説明の必要がない。外来生物の影響は特に島嶼とうしょと淡水域で大きく、いずれも周囲を海や陸で囲まれた孤立した生態系であることが特徴だ。湖沼ではブラックバスがか弱い在来の魚を食べ、沖縄ではマンダースがヤンバルクイナを襲う。人間のエゴイステイックな行動の結果、各地で独自に進化した生物が圧迫されるのは由々しき事態だ。この特殊性の喪失を止めるため、対策を進めなくてはならない。

しかし、この構図が誤解を生む。

X

地球と火星に、それぞれ八七〇万種の異なる生物がいるとしよう。互いに全種を外来種として交換し、一種も絶滅しなければ、両星に各一

七四〇万種の生物が定着する。各星の種類は増加し一見多様性が増加したように錯覚するが、結論から言うとこれは生物多様性が減少した状態だ。

生物多様性には様々なスケールがある。種数で見れば倍増だが、生態系のレベルでは違う意味を持つ。最初は地球と火星に異なる二つの生物相があったが、事後には同じ生物相が二箇所にあるだけだ。地域的独自性がなくなり、「多様な生態系がある」という状況が消失している。生物が絶滅せずとも、均一化は生物多様性の減少を意味するというわけだ。これが広がれば、太陽系のどの星にも同じ光景が広がり、何の面白みもなくなる。被害の大小は対策の動機ではなく、優先順位の尺度なのである。

とはいえこの問題に④カンゼン懲悪的構図が透けて見えるのは事実である。その原因の一端は研究者にある。外来生物の悪行を喧伝することで、国民の理解と対策推進の原動力を得るのは常套手段だ。私もその片棒を担いだことがあり、ここにお詫び申し上げたい。問題の認知が進んでいなかった頃は、このような策もやむを得なかった。しかし、昨今の社会は成熟し問題は十分に認識されている。今は一歩進んだ理解が進みつつある過渡期と言えよう。

さて、自然を理解したいという知識欲は人間を苛む一〇八の煩惱の一つだ。この欲求を満たすには、生物多様性の維持が不可欠である。この点で、保全とは欲求成就のためのエゴイステイックな行動と言える。そして、自分の好きなものを、特殊性と普遍性が織りなす生物世界の愉しみを、子々孫々に贈りたいという思いもまた利己主義の発露なのである。

川上和人「複雑で単純な世界の単純で利己的な動機」より

(注1) ギーガー —— スイス出身の画家、イラストレーター、造形作家。映画『エイリアン』のデザイナー。

(注2) パンズ・ラビリンスのペイルマン —— 映画『パンズ・ラビリンス』に登場する魔物。

(注3) トム・ハンクス —— アメリカの俳優、映画監督。

問1 二重傍線部㉞㉟の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

㉞ トげた

- ① 夏目漱石にシンスイする
- ② 士気をコスイする
- ③ 率先スイハンする
- ④ 事態のスイイを見守る
- ⑤ 目標のカンスイに努力する

㉟ ギョウシ

- ① 水蒸気がギョウケツする
- ② 必死のギョウソウで走る
- ③ 文学にツウギョウする
- ④ びっくりギョウテンする
- ⑤ ギョウカンを十分とる

㊦ ウルオウ

- ① ジュンボクな人柄である
- ② インジュンな態度をとる
- ③ ジュントウに勝ち進む
- ④ リジュンを追求する
- ⑤ 法令にジュンキョする

㊦ ケンゲン

- ① 両親ともケンザイです
- ② ケンチヨな事例を示す
- ③ 投票をキケンする
- ④ ケンシヨウに応募する
- ⑤ 使者をハケンする

㊧ カンゼン

- ① 争いをボウカンする
- ② 遠来の客をカンゲイする
- ③ 辞任をカンコクする
- ④ 論理をイツカンさせる
- ⑤ 混雑がカンワする

問2 空欄

A

B

番号で答えなさい。

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に

- | | |
|------------|-------|
| B | A |
| ① アイデンティティ | ① 有機化 |
| ② コンセンサス | ② 具体化 |
| ③ コンセプト | ③ 現実化 |
| ④ ニュアンス | ④ 相対化 |
| ⑤ オピニオン | ⑤ 一般化 |

問3 傍線部1「多様性とは特殊性の集合である」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 多様性があるとは、人間の理解できない変化を起こしながら生き残っている生物が、覇を競い合っているということ。
- ② 多様性があるとは、視覚を喪失するなどのように普通ではない事態に動じない生物が、多く存在しているということ。
- ③ 多様性があるとは、環境に左右されることなく、固有の特徴を保持している生物が、生き残っているということ。
- ④ 多様性があるとは、それぞれ他とは異なる進化を果たした八七〇万種の生物が、この世界に存在しているということ。
- ⑤ 多様性があるとは、他とは異なった習性を持つようになった生物が、生存競争をせずに共存しているということ。

問4 空欄 甲 にあてはまる最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 卑俗な世界を優雅な言葉で表現すること
- ② 有機質な世界を無機的な記号で表現すること
- ③ 複雑な世界を単純な法則で表現すること
- ④ 緻密な世界を粗雑な方法で表現すること
- ⑤ 相対的な世界を絶対的な論理で表現すること

問5 傍線部2「冒険心の強い個体は淘汰されやすい可能性がある」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 自分の能力を過信して、島から移動しようなどと思う個体は、移動に失敗し、能力のなさを実感することになる可能性があるということ。
- ② 成功するかどうかわからないのに、島から移動しようなどと思う個体は、移動に失敗し、滅んでしまうことになる可能性があるということ。
- ③ 自由を求めて、島から移動しようなどと思う個体は、移動に失敗し、逆に島に閉じ込められてしまうことになる可能性があるということ。
- ④ 自分に適した環境を探そうと、島から移動しようなどと思う個体は、環境にいつか返しを食わされることになる可能性があるということ。
- ⑤ 島に来ることを望んでいなかったため、島から移動しようなどと思う個体は、快適な生活を手放すことになる可能性があるということ。

問6 傍線部3「様々な恩恵」とあるが、その説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 多様な生物が存在することで人間は知識を得ることができ、それは知ること自体を目的とするものである。
- ② 一見人間の役に立ちそうにない生物や、人間に嫌われている生物も、人間に利益をもたらす可能性を潜在させている。
- ③ 生物の多様性があることで、人間は多様な農産物が生み出されるといふ実利的な効用のみを享受することができる。
- ④ 人間に新たな危機が訪れたときに、生物の多様性があると、思わぬ生物がその危機の回避に役に立つ可能性がある。
- ⑤ 多様な昆虫が存在していることで、様々な花粉を運ぶことができ、人間は多様な植物資源を得ることができる。

問7 空欄

X

 に入る〔1〕～〔4〕の文を正しく並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答

用紙に番号で答えなさい。

- 〔1〕 何しろ彼らは故郷を失い彷徨^{さまよ}う悲劇の民である。
〔2〕 確かにバルタン星人が平和種族なら、共存も一つの方策だ。
〔3〕 とはいえ、生物多様性を守る上ではそうはいかない。
〔4〕 在来生物の被害が対策の理由なら、害がなければ問題がなくなる。

- ① 〔1〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔2〕 ↓ 〔4〕 ② 〔2〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔4〕 ③ 〔2〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔4〕 ↓ 〔1〕
④ 〔4〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔2〕 ⑤ 〔4〕 ↓ 〔2〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔3〕

問8 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 地域的独自性を守ろうとする利己主義的な研究者の考えよりも、生物の生存環境を作ることがまず第一である。
② 各地で独自に進化した生物が外来種によって圧迫されているが、それは人間の利己主義的な行動の結果である。
③ 生物の多様性を保全することは、人間の利己主義の表れであるから、多様性の保全を最優先にすべきではない。
④ 外来生物を排除し、在来種を守ることは、利己主義的な研究者の考えで、外来種が絶滅することは問題である。
⑤ 利己主義的な人間の知識欲を満たすために、生物の多様性を維持しようとするなんてもったいない。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

そろそろ二十年近く前のことになるが、いわゆる通俗健康本を読んだ。たいしておもしろいとは思わなかったが、1 メタボリック・シンドロームという新しいことばを知った。脂肪が内臓にたまっておこる肥満でいろいろ不健康リスクをとまなう、というのである。素人にはよくわからないから、そのうちに忘れてしまう。読んだ本の書名も覚えていないようになった。

そんなあるとき、頭が知識でいっぱいになった人間が、まるで、ものを考える力を失い、口の悪いのから「専門バカ」と言われたりするの
はなぜだろうか、と考えていて、フト、忘れていたメタボリック・シンドロームのことが思い出された。

そうだ、頭にも似たようなことがおこるに違いない。知識をとり込みすぎ、それを使うこともなく、頭にためておくと、知的メタボリック・シンドロームになるのではないか。知識は有用であるが、消化し切れない知識をいつまでもかかえこんでいると、頭は不健康な肥満になるおそれがあるだろう。

知識が少なく、利用が活発であれば、余分な知識がたまって、病的状態になることはないが、知識、情報があふれるようになり、さらにせつせと摂取していれば、消費されないものが蓄積されて、頭を健康を害することがありうる。

あ、体のメタボリック・シンドロームに似たことが、頭においてもおこりうる。メタボリック・シンドロームは、二十世紀の終わりになってから注目された新しい障害であるが、知的メタボリック・シンドロームはまだ気づく人もいないようである。そのきっかけになったメタボリック・シンドロームは、（注1）セレンディピティをおこしたことになる。少なくとも、私自身はそう考えた。

ただ、知的メタボリックがよくない、というだけでは、無責任である。どうしたらそうならないかをあれこれ考えた。医学ではメタボリック・シンドロームにならないために、散歩をすすめたようであるが、知的メタボリックは散歩だけでは対処できそうにないと考えていて、忘却を思いついた。いくら知識がふえても、どんどん忘れていけば、過剰になる心配は少ない。2 忘却は大切なはたらきであることに気づいた。忘却が活発であれば、知識過多になる心配は少ない。忘却がうまく働かないと、それほど摂取知識が多くなっても、余剰知識がたまって頭の活動を阻害するおそれがある。よく忘れるということは、頭のはたらきを支える大切な作用であると考えようになった。

これが、常識的でないことははっきりしている。その問題をどうのりこえるか。

われわれは子どものときから、忘れてはいけない、としつけられている。宿題などを忘れてくれば、学校で叱られる。忘れものがあれば、ときに、とりに帰ることもある。授業で習ったことすべて覚えていなくてはいけない。忘れてはいないか、たしかめるために、試験がある。忘れっぽいのは点が悪い。頭がいいのは忘れないでよく覚えている。そうきめてしまう。

たとえば、知識を食べるものとすれば、忘却は消化、排泄に当る。ものを食べて消化、吸収する。その残りカスは体外へ出す。食べるだけ食べて、消化も排泄もしなければ、不健康な満腹、糞つまりとなって危険である。糞つまりを放置することはあり得ないが、知的メタボリック・シンドロームによる糞つまりは、うっかりすれば見逃されかねない。

そうなつては困るから、自然の摂理として消化、排泄が行われるようになっているのである。それが忘却である、と考えた。自然の摂理と言ったのは、そういう重要なはたらきを個人の努力などにまかせるのは危険だからである。うっかり、はたらかせなかったりしたら大事になる。そうならないために、³自然忘却がある。とくに忘れようと思わないでも、自然に忘れられる。それについて、強弱の個人差があるように忘却力のつよい人は頭がからっぽ近くになるまで忘れることができるのに、自然忘却力の弱い人は、覚えていなくてもいいことまで忘れない。これまでは、こういう忘れない人を優秀だと考えてきた。

自然忘却のもつとも重要なのは、睡眠中の忘却で、これはレム睡眠と呼ばれる眠りの間におこると考えられている。普通、一夜に数回のレム睡眠がおこる、とされる。ここで有用と思われる情報、知識のうち当面、不要と思われるものが、区別、分別されて、廃棄、忘却される。頭のゴミ出しのようなものである。朝、目覚めて、たいいてい気分が爽快であるのは、頭のゴミ出しがすんだあとで、頭がきれいになっているからである。

これが毎晩、Aに行なわれているのだからおどろきである。なんの努力もしないで自然に忘却できるのだからありがたいと思わなくてはいならないが、自然におこっていることは当たり前だとして無視する。それで、忘却の効用ということを知る人が少なく、努力を要する記憶をありがたがる、ということになる。

人間にとって死活にかかわる体のはたらきは多く自然のように見える。呼吸、血液の循環、睡眠など、みな自然におこなわれていて、とくに自覚的努力をしていない。い、そのありがたさが忘れられるのである。忘却もそのひとつと言ってよい。まったく忘れることができなかつたら、人間は生きていられないだろう。それを忘れていられるのは忘却のおかげである。

自然な生活、変化のはげしくない生き方をしていれば、レム睡眠を中心とする自然忘却で充分頭は整理されるが、刺激の多い、多忙な生活

をしていると、自然の忘却のはたらきだけでは忘却できないことが残る。それが鬱積すると頭のはたらきが悪くなり、重苦しい気分になったりする。倦怠^{けん}を覚え、疲労がたまり、意欲も減退する。

面倒な問題をかかえた会議などでも、ある時間続けていると心理的圧迫が高まって活気が失われる。それで休憩をとる。外国ではコーヒー・ブレイクと言われる。そこで会議のことをひととき忘れると、めいめい気分一新、新たに考えたり議論する気持ちになるのである。

動きまわるのはたいへん効果がある。学校の授業には、休みの時間がある。小中学生だったら、外へ出て走りまわったりするのが望ましい。【一】勉強家が、教室に残って、ノート整理などするのを得意がるが、考えが浅い。【二】次の時間の授業がうまく頭に入らない。【三】それだけでなく、なんとなくユウウツになることが多い。【四】外でとびまわっていけば、前の授業のことなどひととき忘れて、ハツラツとした気分になる。前の時間の授業のことを半ば忘れて次の授業に臨めば、授業はすらすら頭に入る。【五】

スポーツをすると勉強ができない、そう思っている人が多いが、スポーツをする、勉強もつよい文武両道の子どももある。スポーツの練習で勉強の時間が少ないのに、勉強ばかりしている生徒より学業の成績がよいということがある。スポーツで、頭をきれいにしているからである。

ある大学生は陸上競技の選手ながら、なかなかの学業成績をあげていた。もつと学科の成績を上げようと、スポーツをやめてしまった。ところが、結果は、予想を裏切った。スポーツの練習で忙しかったときより成績が下がってしまった。その人はあわてて、また陸上競技を再開、成績も復活したという。4 スポーツが忘却によって学習効果を高めていたのである。

不眠不休は大働きのように見えるが、疲れて、あまりよい成果が得られないことがあるのも、忘れる時間がないからである。

いざ忘れようと思うのが人情である。 う、あいにくのことに、頭にこびりついて忘れられない。いろいろ工夫して見つけたのが、ヤケ酒である。ぐでんぐでんに酔っ払えば、さしものいやな思いもさりと忘れることができる。体にはよくないであろうヤケ酒は、 B に は百薬まさるところがある。それをはじめて見つけたのはかなりの人間通だったと思われる。

外山滋比古『乱読のセレンディピティ』より

(注1) セレンディピティ —— 思いがけないことを発見する能力。

問1 傍線部1「メタボリック・シンドローム」とあるが、これにならないためにはどうすればよいのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 不即不離を心掛ける
- ② 心機一転を図る
- ③ 摂取不捨を心掛ける
- ④ 新陳代謝を図る
- ⑤ 則天去私を心掛ける

問2 空欄

あ

く

う

を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① つまり
- ② そのため
- ③ ちなみに
- ④ ところが
- ⑤ そこで

問3 傍線部2「忘却は大切なたらきである」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 身体にとっての脂肪と同じように頭にとっての知識は役に立つものではないので、できるだけ体外に放出した方がよいから。
- ② 記憶することに長けて^たいる人は学校では賞賛されるが、忘却することに長けている人の方が社会ではよい仕事ができるから。
- ③ 記憶する知識の量を減らしさえすれば、不健康な知的メタボリック・シンドロームになることから逃れることができるから。
- ④ 身体的肥満は栄養価の低いものを食べることにより解消でき、精神的肥満は不要な知識を忘れることにより解消できるから。
- ⑤ 記憶ばかりしていて知識が過剰に蓄積されると頭がはたらかないし、嫌なことは忘れないと生きる意欲も減退してしまうから。

問4 傍線部3「自然忘却」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 忘却力のつよい人と弱い人が存在すると頭の働きにも差が生じて不平等なので、生得的に忘れるように仕組まれている。
- ② うまく知識を忘却することができず知的メタボリック・シンドロームにならないように、おのずと忘れるようになっていく。
- ③ 起きているときにはおこらず、レム睡眠と呼ばれる眠りのときにおこる忘却のことで、人間にとって重要な機能である。
- ④ 記憶することの大切さは誰もが知っているが、忘れることも意識的に練習して身につけなければならないものである。
- ⑤ 忘れることは罪悪だという観念が身についていると知識が蓄積する一方なので、適当に忘れるように構造化されている。

問5 空欄

A

、

B

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- A ① 主体的 ② 自動的 ③ 直観的 ④ 理性的 ⑤ 計画的
B ① 総合的 ② 本質的 ③ 道徳的 ④ 心理的 ⑤ 学問的

問6 次の一文を挿入する場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

そんなことをしていれば、頭は勉強したことではいっばいになる。

- ① 【I】 ② 【II】 ③ 【III】 ④ 【IV】 ⑤ 【V】

問7 傍線部4「スポーツが忘却によって学習効果を高めていた」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① スポーツで頭をリフレッシュすることで新しいことが学びやすくなるため、勉強時間が少ないのに結果が出ているということ。
② スポーツの練習で身体を鍛錬している者は、練習しながら頭も使っているので、学業の方の成績も優秀であるということ。
③ スポーツをしている者は集中力が持続するため、いったん勉強を始めると気を散らすことなく学習効果が上がること。
④ スポーツができる者は効率よく記憶する方法を練習を通じて身につけているため、新しいことをうまく吸収できるとのこと。
⑤ スポーツをしている者は生得的に忘却能力に優れており、勉強ばかりしなくても成績を残すことができるとのこと。

問 8 筆者の考えと合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙に番号で答えなさい。

- ① 身体の調子だけではなく頭の調子の悪いことも人間にとって大きな問題であるので、だれもが忘れることの重要性を認識している。
- ② ストレスをためると身体だけではなく精神にも支障をきたすので、スポーツをして適度に疲れてたっぷりと睡眠をとることが大切である。
- ③ 意識的に忘れようと思おうと忘れることができず、忘れたくないと思おうと忘れてしまい、忘却は人間の思うようにはならないものである。
- ④ 睡眠中などに行なっている自然の忘却の働きは重要であるが、多忙な生活を送っている人は意識的に忘れるようにしなければならない。
- ⑤ 知的メタボリック・シンδροームが人間にとって大きな問題であると、二十一世紀になって一般的にもようやく注目されてきた。